

氷川神社  
社報 第二十五号

# 武蔵一宮



## 変わらない祈りのために 氏子とともにある神幸祭

新型コロナウイルスが我が国にも大きな疫災として影響を及ぼしてから丸三年が経ちました。この間、長いトンネルに入ったように出口の光明は見えず、いつ終息するのかわからない状態で、人々の生活や価値観は一変してしまいました。神社においてはお祭りを行う事が神明奉仕の基本ですが、氏子崇敬者の集まりが出来ない事で中止、または規模を縮小して行う事が精一杯でした。神社によっては神輿の渡御を人が担ぐのではなく、トラックなどに神輿を乗せる事で代わりとして行う事例も出てきております。苦渋の決断で、それを否定する事は出来ませんが、やはり祭りの賑わいやダイナミズムは失われてしまっております。

当社におきましても令和二年から様々な祭典が元の通りに齋行出来ずにあります。年間で七十以上の祭典がありますが、中でも八月二日の神幸祭は氏子が直接奉仕する唯一の祭典で、旧神領地に住む氏子の方々が神輿や幡旗、威儀のものなどを担ぐ事で齋行されております。

神幸祭の御奉仕をお願いしている町内は、江戸幕府から寄進された旧神領地である上落合(旧与野市)や新開(旧浦和市)、また忌垣と称する区域内(大宮町・大成村・土呂村・本郷村・北袋村・天沼村・加茂宮村の旧七か町村の事)で、現在の町名では上落合・新開・堀の内町・土手町・大成町・東大成町の六町内の氏子の皆様、ここに神社の祭礼や行事に御奉仕頂く氏子青年会の皆様にも加わって頂いております。

六町内からは神饌である鏡餅の奉納も頂く他、上落合地区は元来、神幸祭に用いる小麦藁や苧の奉納を頂いていた地区である事から、現在でも小麦藁から氏子の手で三十枚の苧を編んで作り御奉納頂いております。長い伝統のある神幸祭を、これからも継続していくため、六町内の皆様に御協力をお願いすることともに、他の町内の氏子様におきましても御祭神の恩顧が蒙りますよう、御覧頂ければ幸いです。



御霊代を遷し拜殿を出る神輿



橋上祭での小麦藁苧



(一昨年前は舞殿で齋行)

各町内から奉納の鏡餅と玉串を捧げる氏子代表



上落合の苧編み作業

祭事曆

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

- 一月 一日 歳旦祭
- 二日 日供始祭
- 三日 元始祭
- 七日 昭和天皇遙拝式
- 十五日 献詠祭 (兼題 友 成人祭)
- 二月 一日 月次祭
- 三日 節分祭 ※撒豆式は中止
- 五日 初午祭(稻荷神社)
- 七日 的神事
- 十一日 紀元祭
- 十五日 献詠祭 (兼題 公鳥)
- 十七日 祈年祭
- 二十三日 天長祭
- 三月 一日 月次祭
- 十五日 献詠祭 (兼題 初桜) 郷神楽祭
- 二十一日 春分祭 皇霊殿遙拝式

氷川神社に鈴の緒が無い理由

多くの神社には、社殿前に銅や真鍮製の大きな鈴が吊られており、鈴の緒として麻縄や、紅白・五色の布などを垂らして、参拝者はこれを振り動かして鈴を鳴らし、お参りをします。社頭に設けられた鈴は、その清々しい音色で参拝者を敬虔な気持ちにするとともに参拝者を祓い清め、神霊の発動を願うものと考えられています。しかしながら当社の拝殿の前に鈴はありません。これはかつてあった神社の社格制度が関係しております。すべてではありませんが、官国幣社(官幣社)と国幣社の総称。官幣社は神祇官から幣帛が供される神社、国幣社は国司から幣帛が供される神社であった神社の拝殿には鈴がありません。

明治天皇は、畏くも新政治の大本を古来の祭政一致の道に戻すべく、当社に詔を賜い御親祭を行われました。明治元年に神祇官が再興され、同四年には、新しい官国幣社の定額と職制などが制定、当社も官幣大社に列せられました。そして国家の祭祀を行う大社として、ふさわしい姿を整えるべく社殿や境内を大幅に改造しました。明治十五年には、三社あった旧本殿を相殿として一社にし、また昭和十五年には皇紀二千六百年を祝し、現在の本殿や拝殿、楼門、廻廊、舞殿などを造営しております。

神社で鳴らされる鈴

巫女や神楽師が神楽舞を舞う際に用いる神楽鈴も、社頭の鈴と同様の意味によるものです。古くは巫女が神楽を舞う事により神憑りして人々に神の意思を伝えており、このために必要なものとされてきました。今日では巫女による神楽舞が優雅な形に定められ、神憑りというより神慮を慰めるものとしての意味合いが強くなり、参拝者に対して行われる鈴振り行事は、祓い清めの意味を有するものとなります。その他、御守などの授与品に鈴が用いられるのは、魔除けや厄除け開運のためともいわれています。



浦安の舞での神鈴



神楽師の振る神楽鈴



福鈴(大湯祭授与品)

社頭往来①

正月三が日

令和五年の正月は穏やかな陽気に恵まれ、一日は約九十万、二日は約五十万人、三日は約五十万人で、三が日の初詣参詣者は約百九十万でした。

正月の恒例行事

一日には三の鳥居付近にて大宮鷹職組合によるはしご乗りが、二日、三日には第一駐車場に埼玉県赤十字血液センターの献血バスが運行、三日には舞殿にて大宮能楽研究会による謡初めが行われました。



正月特別紙朱印は一月一日より授与を開始、準備分の二万枚は一月十六日に終了致しました。また、箱型の御力守は同じく一月一日から授与を開始し、一月十五日に終了致しました。

正月特別紙朱印 正月限定守



大宮アルディージャ必勝祈願

一月十日、大宮アルディージャの佐野秀彦代表取締役社長、原博美フットボール本部長、相馬直樹監督が玉串を捧げ、今季の必勝を祈願しました。



氏子総代初祈禱祭

一月十三日、氏子総代・評議員約八十名参列のもと新年の初祈禱祭を行い、皆様の無病息災を祈願致しました。



写真提供：大宮アルディージャ

社頭往来②

防災訓練

一月二十五日、大宮消防署の指導のもと、放水訓練や消火器を用いた消火訓練などを行いました。



一の鳥居改修工事



二月一日、一の鳥居の改修工事にあたり安全祈願祭を執り行

いました。設計は日本建築工芸設計事務所、施工は株式会社渋谷にて、鳥居の柱交換、基礎新設、屋根銅板の葺き替え、塗装の塗り直しなどを行います。工期は五月十五日までを予定しており、期間中は車両通行止めになり一定期間は歩行者も通行止めになります。

大宮二十景入賞作品展示

二月七日より十七日まで大宮区主催の大宮二十景絵画コンクールの入賞作品二十四点の廻廊展示を行いました。尚、入賞作品はさいたま市のホームページで御覧頂けます。



春の婚礼展開催

二月十一日、春の婚礼展として婚礼品展示会並びに新規御相談会及び模擬結婚式を執り行いました。尚、新規相談会のみは一月二十二日、三月五日にも行っております。



稻荷神社鳥居奉納奉告祭



二月十六日、境内の稻荷神社にて鳥居の奉納をされた株式会社

社クローバー様参列のもと、奉納奉告祭を執り行いました。

大宮アルデージャ サポーター必勝祈願

二月二十五日、大宮アルデージャのホームゲーム開催にあたり、佐野秀彦社長とアルデージャサポーターによる必勝祈願が行われました。



宇宙劇場 星を見る会

二月二十五日、境内にて宇宙劇場の出張「星を見る会」が開催されました。



社頭往来③

埼玉の神社御朱印展

三月一日より御本殿の西側待合所にて埼玉県神社庁主催の「神主さんと神社を学ぼう！」に先行して「埼玉の神社 御朱印展」を開催致しました(四月二日まで)。



埼玉武蔵ヒートベアーズ 必勝祈願



写真提供：埼玉武蔵ヒートベアーズ

三月五日、独立リーグの埼玉武蔵ヒートベアーズの角晃多代表取締役社長、西崎幸広監督が玉串を捧げ、今季の必勝を祈願しました。

新陰流正伝上泉会奉納演武

三月十二日、正式参拝の後、舞殿にて新陰流正伝上泉会会長長島正紀氏他会員により演武が奉納されました。



春の特別紙朱印「花しづめ」 春の限定お守り「咲守」



三月十八日より春の特別紙朱

印「花しづめ」(四月一日授与終了)、また春の限定お守り「咲守」の授与を開始致しました。



正統正流無雙直傳英信流 居合道国際連盟奉納演武

三月十八日、正式参拝の後、舞殿にて正統正流無雙直傳英信流居合道国際連盟会長の小原憲一氏他会員により演武が奉納されました。



埼玉県煎茶道連盟 春の茶会

三月二十一日、勅使館及び呉竹荘にて埼玉県煎茶道連盟の春の茶会が開催され、さいたま市

長清水勇人様他、県内外から約二五〇名の参加者がございました。

茶席

静風流 小川光和  
方円流 丹波祥園  
専心小笠原流煎茶 川野香星



埼玉県神社庁主催 「神主さんと神社を学ぼう！」

三月二十六日、境内にて埼玉県神社庁主催の教化事業「神主さんと神社を学ぼう！」が行われました。当社神職による境内案内の他、県内神職約四十名が案内や説明を担当し、神話カレンダー原画展、川越祭りばやし「川越市中台囃子連中」、神楽舞・雅楽の奉奏、神話デジタル紙芝居、御朱印帳作りや祓詞浄書体験などを行いました。また共催でクラブツーリズムによる「神道入門講座(埼玉県神社庁武田淳参事)」、「神社と防疫祭祀(帝京大学講師加藤健司先生)」、「神社と日本神話(國學院大學平藤喜久子先生)」の講座が開かれました。



御朱印帳作り・祓詞浄書体験



川越祭りばやし「川越市中台囃子連中」



神話デジタル紙芝居



神楽舞 豊栄の舞



講座「神社と日本神話」



神話カレンダー原画展



また、同時開催として参道では大宮のグルメが集まる「氷川マルシェ」、埼玉中央青年会議所による「神社散策ツアー」や「神話紙芝居」、「和傘の参道 和傘タワー」などが催されました。



ツミの雛



ツミの番い<sup>つが</sup>



ビンズイ



カルガモの親子



アオバズクの親子



ハクセキレイ



オオタカの親子・雛



オオタカ

氷川神社参道や神池、大宮公園の恵みを求めて多くの野鳥の姿が見られます。その一部を御紹介します。特に参道のツミや本殿裏のオオタカは多くの方が写真を撮影されております。

写真提供：齋藤 裕 氏



# 江戸幕府と氷川神社

「正保年中氷川社古図」  
岩井隆興氏蔵 正保二年（一六四五）



戦国時代が終わると泰平の世が訪れ、江戸幕府の寄進により社領が認められ、神社の運営はそこからの年貢等で行う事になります。

右の図は当社の境内を描いた絵図の中で、最も古いもので、寛文七年（一六六七）の社殿造営以前の境内配置を伝える唯一の絵図に注釈をつけたものです。この頃は、男体社（図では本社）、女体社（図では稲田）、簸王子社（図では火のおうし）でもって氷川神社であり、観音寺や愛染坊なども境内にございました。

江戸時代の当社は神仏習合の神社であり、神社の運営は神主家を中心として神職組織や社僧によっても行われました。その配当は寺社奉行からの裁定によって規定され、原則的に均等に行われました。寺社奉行は氷川神社を安定して運営する為、さまざまな裁定を行い管理していきます。

## 分社紹介 渋谷氷川神社 ー境内約四千坪の渋谷最古の神社ー



御祭神

素戔鳴尊 稲田姫命 大己貴尊 天照皇大神



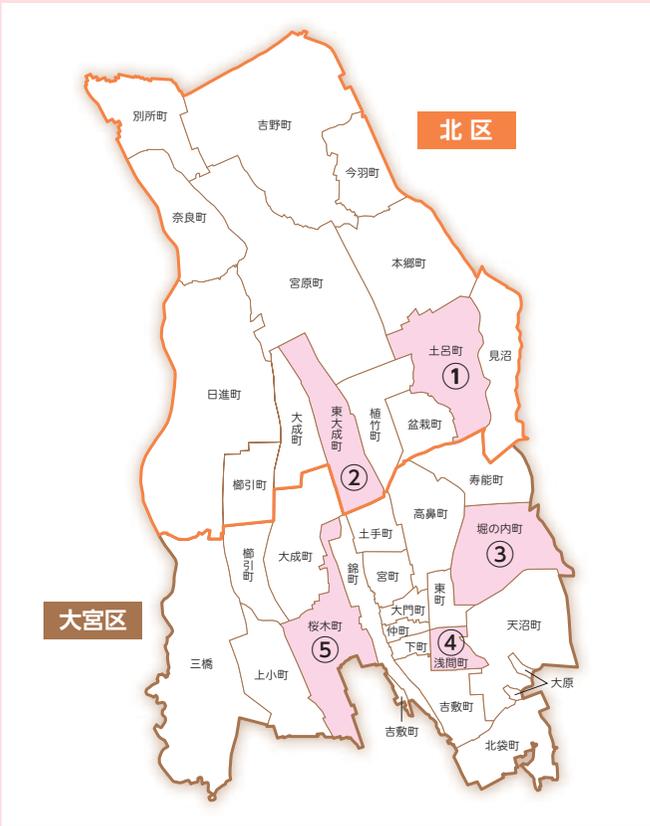
常盤松の碑

鎮座地 東京都渋谷区東二一五六

由 緒 古くより「氷川大明神」と呼ばれ、旧下渋谷村・下豊沢村の総鎮守として篤く信仰された。慶長十年（一六〇五）に記された渋谷区指定文化財の『氷川大明神并宝泉寺縁起絵巻』によれば、景行天皇の御代に、日本武尊が東征した際に素戔鳴尊を勧請したのが始まりという。こうした由緒から、渋谷氷川神社は渋谷最古の神社とされる。

弘仁年間（八一〇〜八二四）に慈覚大師こと円仁が宝泉寺を開基し、それ以後は別当寺となった。慶長（一五九六〜一六一五）の頃に社殿を建立、その後たびたび修復され、享保十九年（一七三四）発願、同二十一年（一七三六）に社殿が再建された。現在の社殿は昭和十三年（一九三八）に氏子町内の寄付によって造営されたもの。かつて境内にあった神木「常盤松」が地名として現在に残っている。

地域の氏神社紹介 ⑦



① 宗像神社(土呂弁天講)  
さいたま市北区土呂町  
1月 祈年祭



② 石上神社  
さいたま市北区東大成町  
4月 例祭



③ 白山神社  
さいたま市大宮区堀の内町  
9月 例祭



④ 浅間神社  
さいたま市大宮区浅間町  
7月 初山祭



⑤ 神明神社  
さいたま市大宮区桜木町  
4月 例祭

当社は武蔵国の一宮として広く守護しておりますが、当社以外にも古くから「村の鎮守」、地域の氏神様として祀られている神社がございます。

こちらに掲載の五社は祭典の折に当社神職が外向致します。

特徴のある信仰としては、②の石上神社は痘瘡の神として信仰された神社である事から赤い幣神を祀ります。また、④の浅間神社の初山祭では、初山参りをした一歳の赤ちゃんの額に朱印が押されます(現在、コロナ禍により中止しております)。

埼玉県内の神社は埼玉県神社庁のホームページで検索頂けます。  
<http://www.saitama-jinjacho.or.jp/search/>



浅間神社 初山参り



石上神社 赤い幣神

五月〜六月の行事、催事のご案内



お問い合わせ先  
(公社)さいたま観光国際協会  
048-647-8339  
(土・日・祝休)

・日程 五月十二日(金)十三日(土)  
・会場 舞殿

第四十二回 大宮新能



お問い合わせ先  
さいたま市商業振興課  
048-829-1364  
(土・日・祝休)

・日程 五月三日(水祝)〜五日(金・祝)  
(三日(水・祝)は大宮駅東口  
銀座通りのみ)  
・会場 参道

おのみや盆栽春まつり

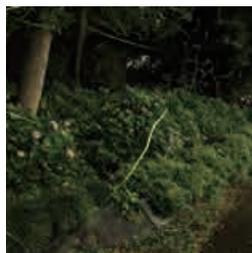


茅の輪守 大・小  
各1,000円

6月17日より  
授与開始です

・神事日程  
六月三十日(金)  
午後二時〜  
・齋場 舞殿  
茅の輪は六月十七日  
〜七月二日まで設置

夏越大祓



氷川マルシェ同時開催

・日程 六月三日(土)、四日(日)  
・放生祭齋場 舞殿  
・鑑賞会会場 本殿西側水路、蛇の池

螢放生祭及び鑑賞会

第二十六号は七月十五日発行予定です

特別紙朱印 各500円



5月20日授与開始



「ほたる」



「茅の輪くぐり」

6月17日授与開始

夏の特別紙朱印の他、最新のお知らせはホームページ、SNSでお知らせ致します。

また、諸事情によりお参り出来ない方には、ホームページにて郵送祈祷、郵送神札の御案内を行っております。

ホームページ



Instagram



Twitter



発行 令和5年4月15日 発行所 氷川神社社務所

写真協力 渋谷氷川神社 宮野信昭 中村写真館 工藤裕之 印刷所 株式会社 秀飯舎  
さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <https://musashiichinomiya-hikawa.or.jp>